

体育科学習指導案

指導者 熊野町立熊野第四小学校
教諭 ○○ ○○

- 1 日時 令和5年6月12日(月) 第5校時 熊野第四小学校運動場
- 2 学年 第5学年
- 3 単元名 「リズムに乗って跳ぼう!～タ・タ・ターーン!～」
C陸上運動 ウ 走り幅跳び

4 単元について

(1) 単元観

本単元は、小学校学習指導要領(平成29年告示)解説体育編第5・6学年「C陸上運動」「ウ 走り幅跳び」を受けて設定した。走り幅跳びでは、その行い方を理解するとともに、試技の回数や踏切りゾーンの設置などのルールを決めて競争したり、自己の記録の伸びや目標とする記録の達成を目指したりしながら、リズムカルな助走から力強く踏み切って跳ぶことができるようにすること(知識及び技能)や、自己の能力に適した課題の解決の仕方、競争や記録への挑戦の仕方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること(思考力、判断力、表現力等)や、運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、勝敗を受け入れたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりすること(学びに向かう力、人間性等)を育成することをねらっている。

(2) 教材観

走り幅跳びは、助走、踏切り、空中姿勢、着地の4つの動作に分けることができる。助走では速い助走速度を保ったまま、リズムカルに走ること、踏切りでは決められた踏切り位置でななめ上に鋭く跳び出すこと、空中では腕を振り上げて体全体を伸ばすこと、着地では足を曲げながら両足で着地することが大切な運動である。また、自己の記録を伸ばしたり、友達と競争したりして楽しむこともでき、特に、自己の記録更新を目指したり、チーム対抗で競争してゲーム性を取り入れたりすると、一層楽しいものとなる。本教材は、自己の目標の達成を目指す中で、個々の課題を解決するための場を工夫したり、子供相互で観察する視点を明確化したりすることで、遠くに跳ぶために必要な力、自分の課題を解決する力や友達と、関わり合いながら学ぶ姿勢などを高めるに適した教材である。

(3) 児童観

児童に実態については、アンケート等をもとに記入しています。

(4) 指導観 (太字網掛けは共生の視点・太字下線は関わり合いの視点)

指導に当たっては、**主体的に学ぶ態度を育成するために、個人の目標を立てさせる手段として立ち幅跳びの記録から目標記録を出させるノモグラムを活用し、他者の記録と比べることより、自分の目標に向けて意欲的に学習できるようにしていく。**

また、毎時間、個人の目標記録との差に応じてポイントをつけ、どの児童にも毎時間の頑張りが目に見えるようにし、互いに称賛し合えるような雰囲気を作りたい。

単元の構成としては、(詳細は7 単元モデル参照) 1次で学習の進め方などに関するオリエンテーションを行い、2次では、走り幅跳びの学習で習得したい、知識、技能を中心とした指導を行う。具体的には、3歩助走をリズムカルに行えるようしてから5～7歩助走へとつなげていくような助走の指導、次に踏切りや空中での姿勢を身に付け、安全な着地につなげていく。

3次では、複数の場を用意して自分の課題に合った場で練習できるようにすることで、課題を解決していくようにする。ここでは、主に**思考力、判断力、表現力を育成するために、ICT機器を適宜取り入れ、課題設定や、動きのポイントや自己の課題に気付かせるための手段として活用していきたい。その際に留意することとして、児童に「観る視点」をもたせることで具体的にアドバイスし合えるようにする。**

単元の終末では、記録会を行うことで、学習をする必然性をもたせていくと同時に、より意欲的に学習ができるようにしたい。

5 単元の目標

知識及び技能	走り幅跳びの楽しさや喜びを味わい、その行い方を理解するとともに、試技の回数や踏切りゾーンの設置などのルールを決めて競争したり、自己の記録の伸びや目標とする記録の達成を目指したりしながら、リズムカルな助走から力強く踏み切って跳ぶことができるようにする。
思考力、判断力、表現力等	自己の能力に適した課題の解決の仕方、競争や記録への挑戦の仕方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。
学びに向かう力、人間性等	走り幅跳びに進んで取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、勝敗を受け入れたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりすることができるようにする。

6 単元の評価規準

知識・技能	<ul style="list-style-type: none">走り幅跳びの行い方を理解している。試技の回数や踏切りゾーンの設置などのルールを決めて競争したり、自己の伸びや目標とする記録の達成を目指したりすることができる。リズムカルな助走から力強く踏み切って跳ぶことができる。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none">自己の能力に適した課題の解決の仕方、競争や記録への挑戦の仕方を工夫している。自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none">走り幅跳びに積極的に取り組もうとしている。約束を守り助け合って運動をしようとしている。勝敗を受け入れ、仲間の考えや取組を認めようとしている。場や用具の安全に気を配っている。

本質的な問い（何度も問い直され答えが更新され続ける問い）
走り幅跳びの楽しさって何だろう。

単元を貫く問い（単元を通して考え深めていく問い）
クラス全員が、目標記録を達成するには、どんな動きが大切なのだろう。



次	第1次	第2次	第3次
回数	1	3	6
時間	2	4(本時)	5
0分	①オリエンテーション (用具や場の準備・学習のルールなどの確認)	④記録の測定(立ち幅跳び)	⑤試しの運動
学習の流れ	②慣れの運動	③めあての確認 ◆本時のめあて 速くへ跳ぶための課題を用いけることができる。	③リフレクションタイム ④めあての確認 ◆本時のめあて 自分の課題に合った場で練習をして、記録を伸ばすことができる。②
	③めあての確認 ●本時のめあて どんな助走・踏切をすれば、より速くに跳ぶことができるかを見付けて、跳ぶことができる。	④試しの運動	⑤試しの運動
	④記録の測定(立ち幅跳び)	⑤リフレクションタイム	⑥記録会
	⑤試しの運動	⑥振り回り・片付け・挨拶	⑦振り回り・片付け・挨拶
	⑥振り回り・片付け・挨拶	⑦振り回り・片付け・挨拶	⑧振り返り
	45分	◆予想される振り返り 助走と踏切の大切であることが分かった。助走と踏切のコツを知りたい。	◎予想される振り返り 7歩や10歩の助走で最後は、タターンのリズムで跳ぶとよいことが分かった。空中姿勢や着地のコツも知りたい。
評定	知・技 ○	態度・判別・表現 ○	学びに向かう ○



目指す児童の姿（ゴールイメージ）
自分の目標記録に向かって練習することで、跳ぶことの楽しさにふれることのできる児童

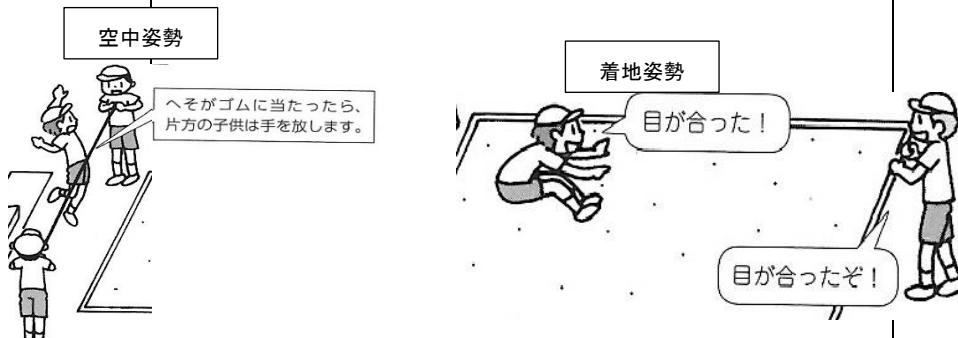
8 本時の学習展開

(1) 本時の目標

- ・遠くに跳ぶための空中・着地の姿勢の仕方を考え、跳ぶことができる。(知識及び技能)

(2) 学習の展開

主な学習活動	◇指導上の留意点 ◆「努力を要する」状況と判断した児童への指導の手立て ☆児童の気付き ◎共生の視点 ■関わり合いの視点	評価(☆) 【評価方法】
1 チームで運動の場や用具の準備、準備運動をする。 2 慣れの運動(助走・踏切りの練習)を行う。 3 本時のめあてを確認する。	◇安全に気を付けて素早く場を作るように指示する。 ◇前時の学習を振り返り、タタターンのリズムで跳ぶことを意識させる。 ◇より課題意識をもち、意欲的に学習するために、児童の振り返りを活用してめあてを提示する。	
より遠くに跳ぶために、空中や着地の姿勢について考え、跳ぶことができる。		
4 空中姿勢や着地の練習の場で練習をする。	ポイントを伝える ①両手を上げて高く跳ぶ・・・へそをゴムに付ける。 ②着地は両足をそろえて「ん」の姿勢・・・目を合わせる。 ■空中や着地の姿勢についてのポイントと自分の課題を確認してチームで伝え合う。 ◇お互いに見る視点を与えておく。 ・へそがゴムに当たっているか。 ・着地した時に両足がそろっているか。 ・着した時に目が合うか。	
5 気付いたことやできるようになったことを伝え合う。 【リフレクションタイム】 (全体での振り返り)	◇姿勢を作るポイントや友達の動きのよさを全体で共有する。 ☆児童の気付き ・斜め上に力強く踏み切る。 ・思いっきりうでを振り下ろす。 ・下を見ない。 ・ひざをやわらかくして着地。 ◇言葉で伝えにくいことについては、実際にさせてみる。	キーワード ・両手を上から下 ・ひざをやわらかく



6 確認したポイントを試す。	◇上記ポイントを意識して跳ぶことができるようにするために、出てきたキーワードを使って声かけをする。	☆力強く踏み切ったり、踏み切った後の姿勢に注意したりして跳ぶことができる。(知識・技能) 【行動観察】 【ワークシート】
7 記録会をする。	◇記録会のルールを確認し、安全かつ効率的に記録会が進められるようにする。 ◎お互いの競技を応援し合えるように声かけをする。	
8 本時のまとめをする。	<p>今日のポイント</p> <p>①力強く踏み切る。</p> <p>②腕を前に振り下ろす。</p> <p>③着地は「ん」の姿勢。</p>	
<p>まとめ</p> <p>より遠くへ跳ぶためには、空中高く跳んで腕を前に振り下ろし、着地は「ん」の姿勢になるようにする。</p>		
9 振り返りをする。(個別での振り返り)	◇次時につなげるために、本時で出た課題を確認し、学習意欲を高めるようにする。	

視点1 効果的なりフレクシオンタイム（以下：RT）であったか。（視点：手法、発達段階、場面設定）

○主運動に繋がるRTを入れることでその前後での変容が見ることができた。

○ORTで実演させることで、子供たちの具体イメージに繋がる。（他教科でも有効である。）

→動きが伴うことでRTがより有効になる。

○授業の中盤にRTを入れることで子供たちは学習の内容を整理することができた。

●子供たちから出た意見から更に切り返し発問をすることで、理解を広げるようにする。

●子供から出てくる短い言葉でまとめていくと、子供たちが納得していく。

●子供同士でも話し合い、学び合えるようにしていく。

視点2 教材や場の工夫は、児童が学習のねらいを達成することに有効であったか。

○振り返りからめあてに繋げることで、授業で意識することが明確になった。

○ゴムを活用した場で「へそを上げる」ことを意識できた。（ポイントを焦点化）

○授業内で教師がキーワードをさりげなくまいていた。

●全員が並ぶのではなく、半分（跳ぶ・観察する）に分かれて見ると子どもにも声かけの視点が育つ。

☆教頭先生より☆

ORT→授業の中盤にもってくることはチャレンジ

●空中姿勢が長い人、短い人がいる。試技を子供たち同士で見合うことで、自分たちが発見したことを自分たちで取り組んでいき、意欲に繋がる。

☆校長先生より☆

○場の工夫→動きを引き出すことに繋がる

○走り幅跳び＝横の動き＋縦の動き→子供たちは気付くことができた。

●体育館にてグループごとで取り組む事例がある。（練習量が増える）

●子供たちの中核の課題＝踏切りをしてからの振り上げ足

跳べる児童は自然と振り上げ足がしっかりと上がっているため、そこに気付かせたかった。振り上げ足を上げるために「へそをゴムに」ではなく、「膝をゴムに」と意識をすると良い。

